

教 区 報

第119号 2023年6月

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区



発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428 「東日本主教々区宗務局」

<http://www.orthodox-sendai.com/>

orthodox@hyper.ocn.ne.jp

聖五旬祭(聖神降臨祭)

崇め讃めらるる哉ハリストス我等の神よ、
爾は漁者に聖神を遣して睿智者と為し、
彼等を以て世界を漁し得たり、人を愛する主よ、
光栄は爾に帰す

五旬祭は復活祭後の五十日目によって来ます。かつて弟子たちが聖神を受けたように、その賜物は私たちの上にも降り、神の国の民という喜びに満てられます。弟子たちが教会から福音を世界に伝えて行ったように、同時に私たちも彼等に倣い福音の喜びを人々に伝える自覚が必要とされます。それは教会の呼吸、祈りによって為されなくてはなりません。

『天の王、慰むる者や、真実の神^o、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の宝蔵なる者、生命を賜う主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸々の穢れより潔くせよ、至善者や、我等の霊を救い給え』。この祈りは信徒の集まりで先ず歌われ、聖神の働きを通して話し合いが愛によって実が結ばれるように、恩寵を乞うのです。日々の生活のなか、ときに信仰の試されることが多くあります。人々の間を隔てる偏見、傲慢、無関心は国家・民族・宗教などを盾に、争いを引き起こし人のいのちは簡単に踏み潰されます。平和を望む貧しい人々は生かされなくてはなりません。彼等が絶望から守り導かれ、愛と赦しの与えられるよう私たちは熱心に祈らなくてはならない。聖神の熱は冷信に傾きやすい心の奥にまで届き温め、人を隔てる壁を溶かす激しい力となります。聖神は教会に充満し、私たちの中にも充満し、互いの尊重と赦しを育む神の家族のように固め、生命を輝かし動かして共に新たなる世界へと導きます。



光明なる主の復活大祭 2023



白河



中新田



一関



金成



盛岡



高清水



仙台

■ 仙台管轄
 今年は4月16日(日)に各管轄司祭在住教会において復活大祭が行われた。雨天に悩まされたところも多かったが、コロナ禍も少しおさまり、祝賀会を開催してお祝いする教会もあった。

■ 一関管轄
 復活祭当日は、セラフイム大主教座下がニコライ堂での奉事で出張されて仙台では司祭祈祷となった。白河、中新田ともに穏やかな天気のもと十字行、聖体礼儀、墓地祈祷が行われた。

■ 盛岡管轄
 一関の復活祭に十文字の信徒も初めて参拝し、感銘を受けた様子が教会報で紹介された。盛では天気も良く、十字行、聖体礼儀が行われ、墓地祈祷と久々の祝賀会も開催された。

■ 盛岡管轄
 雨模様となり十字行は啓蒙所内で行われたが、祈祷後に食事会をし、明けて10時から復活祭



盛岡



盛岡



石巻



涌谷

主日晚課を行い、夜に参拝出来なかつた方と共に主のご復活を喜びあつた。

■石巻管轄

石巻では祈祷の始まる頃には雨もあがり、十字行をし、聖体礼儀、祝賀会が行われた。管轄教会では洗礼志願者や久しぶりに参拝された信徒もあり、未来に向かって希望が抱ける復活祭となった。

■函館管轄

小ぶりの雨の間隙について十字行をし、修復工事後三年ぶりの聖堂での復活祭が行われた。祝賀会も通常通りに行い、皆で主の復活を喜んだ。上磯でも夜間に以前の形で復活祭奉事、祝賀

会を実施した。

■釧路管轄

雨天で十字行は聖堂内を巡り、早課と聖体礼儀を実施した。祈祷後、茶菓で歓談し、持ち帰りのオードブルも提供された。上武佐もあいにくの雨だったが、聖体礼儀と祈祷後の茶菓での歓談が行われた。

■札幌管轄

雨天の中の復活祭となったが、今年は外国人の方も多く60名以上の方が参拝され、盛大にお祝いした。小樽、苫小牧では天候にも恵まれて十字行も行い、喜びの復活大祭をお祝いすることができた。



函館



函館



上磯



上武佐



釧路



釧路



札幌



札幌

セラフイム大主教座下のご動静

十一月から一月

セラフイム大主教座下は11月の東京滞在中に教役者養成短期プログラムでの奉神礼に参拝され様々のご指導をされた。

12月には、ニコライ堂で降誕祭を迎えられ、祭日徹夜祈と降誕祭聖体礼儀をご祈された。

二〇二三年の新年の奉事は丁度日曜日に当たった。新年深夜0時より新年感謝祈を仙台においてご祈され、翌朝の聖体礼儀及び新年感謝祈も、水口神父の陪侍を得てご祈された。

また座下の聖名祭であるサロフの聖セラティム祭は1月15日(日)に行なわれ、聖体礼儀の後、仙台教会から花束と、婦人会・方舟会・聖歌隊からお祝いが贈られた。

1月22日(日)には、ニコライ堂において神現祭の聖体礼儀に続いて境内にて大聖水式を行われた。



▲ ニコライ堂で主の降誕祭の徹夜祈 12/24



▲ 教役者養成短期プログラム 11/29



▲ 主の降誕祭の聖体礼儀 12/25



▲ 聖名祭・セラフイム祭の祈後 1/15



▲ 神現祭の聖体礼儀後に続いてニコライ堂境内で大聖水式 1/22

二月から四月

セラフイム大主教座下は、2月16日(木)の亜使徒聖ニコライ祭をニコライ堂で祝われ、聖ニコライのモレーベンを谷中墓地で御祈祷された。

大斎の期間中も、仙台と東京を行き来され、仙台においては大斎第1主日の聖体礼儀の後、聖名祭のモレーベンを祈られた他、大斎第2週の先備聖体礼儀、フェオドルのスポタの聖体礼儀と糖飯の祝福も執り行われた。

また3月11日(土)にはニコライ堂で東日本大震災の永眠者を記憶するリティアが行われた。階梯者イオアンの主日の聖体礼儀では説教が行われた。

4月9日(日)の聖枝祭の聖体礼儀において、東京復活大聖堂教会付の輔祭として、ゲオルギー・トロイツキイ師を輔祭に叙聖された。

受難週及び復活祭の奉神礼もニコライ堂で執り行われ、復活祭当日は深夜の祈祷が行われ、十字行、早課、一時課、聖体礼儀がセラフイム大主教座下のご司侍により滞りなく執行された。



▲ 東日本大震災永眠者の為のリティア 3/11



▲ 谷中墓地モレーベン後の記念写真 2/16



▲ ニコライ堂の聖堂入口で復活祭の開始 4/16



▲ ゲオルギー・トロイツキイ輔祭を按手 4/9



▲ 復活祭の早課 4/16



▲ 復活祭の福音の誦読 4/16



▲成聖式の十字行



▲工事関係者と信徒と共に行われた聖体礼儀



▲ダニイル府主教座下のご祝辞代読

函館ハリストス正教会主の復活聖堂の修復成聖式と聖体礼儀並びに関連行事が、一月二十九日(日)にセラフイム大主教座下をお迎えして行われた。管轄信徒、他教会の信徒、工事関係者と共に約六十名が集った。

修復された聖堂は聖油を以て壁面に十字が印されながら聖水が撒かれ、十字行で聖堂を一周。歓喜の聖歌と鐘が響きわたった。聖体礼儀に引続き行われた式典では、大主教座下の式辞、ダニイル府主教座下、函館市長、文化庁担当官からご祝辞を頂いた。また、ご尽力いただいた工事関係者に感謝状が手渡された。

聖堂での行事を終えて昼食会が開かれた。管轄司祭とセルギイ下田執事長の御礼の挨拶、教団から生神女誕生のアイコンが記念として教会へ贈られた。昼食会では、工事関係者と信者らが互いの労をねぎらいながら親しく歓談し、喜びのうちに会を閉じた。



▲修復成聖式記念昼食会



▲遊歩道のチェーン柵の復旧



▲聖堂周囲の芝張り



▲新たに設置されたガードパイプ柵

一月の成聖式を終え、聖堂での祈禱が再開された。三月になると暖かい日が続き、厚く積もった雪もあつという間に融けて、残されていた境内の各種外構工事が始められた。

広場のガードパイプ柵や司祭館側の擬木チェーン柵が新たに設置され、遊歩道や正門階段もきれいに再舗装された。正門石柱の耐震化で設置された鋼鉄製の支柱には八端十字架が施され、外灯とともに夜間には灯籠のように灯りがともる。信徒会館の駐車場も砕石と砂を搬入して転圧され、ぬかるまないように整地され、工事の為に拡幅された会館入口も復旧し、駐車場看板も設置された。聖堂周囲には美しい公園芝が張られ、広場も長らくあったプレハブの事務所や倉庫などが撤去され、野芝を張って復旧された。これで3年にわたる修復工事は竣工となり、聖堂と境内は美しく蘇った。聖堂公開も始まり、連日多くの観光客や市民の方々が訪れている。



▲遊歩道の舗装と司祭館側にチェーン柵を新設



▲会館入口の盛土の復旧



▲正門階段の整地舗装と外灯の更新





盛岡管轄交流会及び 遠野正教会会堂建立10周年記念行事の開催



▲管轄内各教会から集まった信徒たちと共に



▲懇親を深めた食事会

大震災の影響などもあったが、2013年5月19日(日)無事に竣工、成聖を迎えることとなった。日本正教会の現代史において、会堂を持たない家庭集會が、信徒の意志によって独自の会堂を持つまでに至ったことは大変珍しいケースであり、地方の小教会の発展という観点で大きな意味を持つと思われる。

盛岡管轄区では昨年から管轄区5教会の信徒間の交流を深めるために「管轄交流会」を行っている。今年は5月7日(日)、遠野正教会において管轄交流会が実施され盛岡、北鹿、山田、岩谷堂の各教会の信徒が遠野教会に集まり、ともに聖体礼儀を行って兄弟姉妹の絆を確かめ合った。

また今年には遠野教会「アウラム・サッラ会堂」が建立されて10年目の節目に当たり、管轄区の信徒一同、遠野教会のこの10年間の活動を顕彰し、今後の更なる発展を祈った。祈祷後は近隣の「たかむろ水光園」にて会

食を行い、楽しい時間を過ごすこととなった。会食では各教会の執事長からお祝いの言葉が述べられた。食事でも各教会の信徒間で活発な歓談が交わされておき、管轄区全体の交流が深まっていくことへの手ごたえが感じられた。今後も盛岡管轄区が一丸となって発展していくことを期待したい。

※遠野教会自体は明治以来の共同体としての歴史があるが、長らく祈祷のための会堂を持たず、信徒宅にて巡回祈祷が行われていた。やがて信徒内から自分たちの会堂を持ちたいとの声が上がって建設計画を立てることとなった。途中東日本



▲仙台で開催された拡大宣教会議 5/11

秋の盛岡、八幡平を満喫！

2023年度東日本主教区東北ブロック

信徒懇親会 & 教会学校修養会

今年度は信徒懇親会と教会学校修養会（キャンプ）を同時開催
自然豊かな環境で大人も子供のびのびと交流を楽しみましょう
企画内容は現在観覧検討中！

日時	2023年10月8日（日）～9日（月・祝）
開催場所	八幡平温泉郷 八幡平ハイツ
参加費	未定
申し込み	各教会にて受付
問合せ	盛岡ハリストス正教会 019-663-1218

東北ブロック宣教会議の開催

2月9日(木)、仙台において東北ブロック宣教会議が行われた。会議では主に次年度の行事予定、内容について話し合われた。コロナ禍により中断されていた東北ブロック信徒懇親会も4年ぶりの開催を目指して企画していくこととなった。また教会学校のキャンプは、新しい試みとして信徒懇親会の翌日に行う方針となった。また昨年行つて好評だった「誦経奉仕者研修会」も引き続き実施することとなり、聖歌研修会も4年ぶりに行う予定となった。

5月11日(木)には「東北ブロック拡大宣教会議」が仙台で行われた。東北ブロックの神品、宣教委員に加え、コロナの収束を受けて今回は4年ぶりに各教会の執事長も出席すること

なった。会議では最初に長司祭マルコ小池宗務局長から教団、教区のこの一年間の動きが報告され、続いて司祭ルカ田畑ブロック長から東北ブロックでの活動が報告された。さらに各教会の執事長から、教会の現況の報告が行われた。また、次年度の行事計画の日程が決められた。

どの教会にも共通する課題として高齢化、信徒の減少、献金収入の先細りが指摘され、東北の教会の直面する厳しい現状がうかがえた。一方で、洗礼や婚配が予定されている教会や、従来よりも遠方の地域からの参拝者が増えて活気を取り戻した教会の報告もあり、前向きな材料も見出された。各教会の情報共有を通じて、ブロック全体が活気づくことを期待したい。

10月の信徒懇親会は盛岡が担当し、新しい試みとして、信徒懇親会に教会学校のキャンプの要素も盛り込む計画である。遠足や何らかのアクティビティを行い、幅広い世代で楽しめるように考えている。盛岡市は今年、ニューヨークタイムズ紙で「2023年に行くべき52か所」のうちの一つに選ばれ観光熱も高まっている。現在盛岡教会では会場の選定を行っており、いくつかある候補の内から快適で食事が美味しく、自然が豊かな環境の宿を検討している。また翌日のアクティビティについても皆で楽しめるものを企画検討中。

今年にはコロナ禍で実施を断念せざるを得なかった各行事が再開することとなり、教会の発展、活性化に役立つことを期待したい。

北海道ブロック宣教会議の開催

5月13日(土)、14日(日)の日程で、標記会議が各教会の執事長、宣教委員を集めて函館正教会にて開催された。3年ぶりにマルコ小池宗務局長をお迎えし、教区と教団の動静の報告や、意見交換を行い、例年行われていた形で実施することができた。各地からの参加者と主日の奉事を共にしながら、今年度の各教会の活動報告、次年度計画について熱心に討議が行われた。

会議では、コロナ禍の中で、これまで行われてきた様々な活動の制限をせざるを得なかったが、それによって宣教牧会の面で色々な問題も生じて



▲函館で開催された拡大宣教会議 5/13-14

日本ハリストス正教会 東日本主教区 北海道ブロック教会学校宿泊研修会

2023 8月2日(水) - 4日(金)

キャンプだホイ！ in あっさぶ

宿泊地：“ハチャムの森”
駒山オートキャンプ場
松山厚沢部町字木間内60-1
tel. 0139-65-8886

参加費：おとな 12000円
高校生以下 無料

締め切り：7月2日(日)まで

参加の申し込みは、所属教会または下記担当教会までご連絡下さい。
担当教会：函館ハリストス正教会 040-0054 函館市元町3-13
電話 0138-23-7387 Fax 0138-23-7939 fr.clement205@gmail.com

今回の宣教会議は、久しぶりに通常の形で実施され、主日奉事に参拝して共に祈り、聖体礼儀後には最近再開された信徒の昼食会も行われて、懇親を深めることもできた。宣教会議が、停滞している部分を少しずつ改善する取り組みをリードしていくことが求められている。

大きな課題と確認した。そのような状況の中で、北海道ブロックとして、新たな宣教パンフレットを作成する事、キャンプだホイ！の実施、諸会議、研修会を地方教会でも開催して、各教会との交流の機会を増やす事などを話し合い、次年度の行事計画を立てた。また、徹夜祈りの聖歌譜の再版について要望が出され、全国宣教企画委員会に伝えるという意欲的な意見もあった。

今後、どのように教区やブロックの諸行事や、教会の日常的な活動を回復していくか、どの

北海道の正教会案内

北海道の正教会案内

私達の教会

東日本の教会

北海道の正教会

パンフレット



フオマは他の使徒たちに比べて信仰が薄かったわけではありませんが、弟子たちが主に会ったと言っても使徒たちは信じなかったと福音書は記しています。むしろフオマは誰よりも先に信じた者だったとも言えます。イエスが神であるという、大胆な真理を述べた

「我が主よ、我が神よ」と告白したのです。フオマは他の使徒たちに比べて信仰が薄かったわけではありませんが、弟子たちが主に会ったと言っても使徒たちは信じなかったと福音書は記しています。むしろフオマは誰よりも先に信じた者だったとも言えます。イエスが神であるという、大胆な真理を述べた



善なる不信とは、聖使徒フオマの主日前晩課の讃頌にある言葉です。復活したイエスに会ったという仲間たちに対して、そこに居なかったフオマは「私は自分の手をその脇腹に入れてみなければ信じない」と言いました。一週間後イエスは再び現れて、フオマに「あなたの指を私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく信じる者になりなさい」と言いました。フオマは「私の主、私の神よ」と答えました。

善なる不信

司祭 ステファン 内田圭一

最初の人はフオマだったのです。

「見ずして信ずる者」というのは、多くの聖師父が解説しているように後代の信徒のことです。私たちの多くはマリヤの出現や現代医学では説明できないような奇蹟的な治癒を体験すること無く生涯を終えます。それでも福音書や使徒書、世界中に広まった教会共同体の働き、教えによって私たちは見ずして信じる者になれるのです。それはフオマたち使徒のおかげです。

一方で「言われた通りにせよ、疑ってはならない、自分で考えるのではなく前の人と同じようにすれば良いのだ」というのが「見ずして信ずる」ことと勘違いされてはいないでしょうか。とにかく疑われないことが信仰なのではありません。「見ないで信じる人たちは幸いである」という主の言葉が、この世の富や権力、人を支配することが目的のカルト的教祖や権力者、偽宗教者に利用されるようなことは決してあつてはなりません。私たちは神から自由意志を与えられた者として、主体的な信仰を持つべきです。神が私たちに何を求めているのかを、常に真摯に追及していくことが望まれます。

正教会ではフオマを「疑い深い」というよりも「研究を好む」と称してきました。フオマが「私はその手に釘の跡を見、自分の指をその釘の跡に入れてみなければ、また、自分の手をその脇腹に入れてみなければ、決して信じない」と言ったことを正教会は「フオマの善なる不信」と表現してきました。フオマが曖昧な理解で良しとせずに敢えて疑い、確信を得て「イエスは神である」と表明したことによって、私たちにも計り知れない神への真の智慧が示されたからです。

私たちもフオマのように、真摯に主を求め続け、信仰を堅め、確信に基づいて主の言を行う者となりましょう。

公 示

東日本主教々区各教会
 教役者及び信徒代議員 各位

十ハリストス復活！

二〇二三（令和五）年度東日本主教
 教区「教区会議」を左記の日程により
 開催します。

記

一、場所 仙台ハリストス正教会

二、日時 6月25日(日) 12時半より

※詳細は後日送付される開催要項を
 ご覧ください。

令和5年5月25日

日本ハリストス正教会教団

東日本主教々区

仙台の大主教及び東京の副主教

セラフイム

人物消息

― 敬称略 ―

（2022年12月～2023年5月）

◆永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」

札幌	エカテリナ	金田きよ	12月3日
	メフォディ	宮崎隆斗	3月10日
	フェオドル	山口馨	4月16日
苫小牧	マルコ	平井和男	1月2日
小樽	アンドレイ	廣岡凜太郎	12月4日
	エレナ	鈴木寛子	3月30日
函館	アフアナシヤ	北越真佐子	12月4日
	ダリヤ	森幸子	2月1日
	ワシリイ	中田哲雄	2月14日
上磯	マクリナ	佐藤佑子	12月8日
	アンナ	大村多佳子	1月17日
盛岡	アレクサンドル	佐藤 洸	1月20日
一関	ダニイル	山内英一	2月26日
十文字	パンテレイモン	菅原作太郎	1月21日
	ハリテイナ	菅原登美子	3月14日
気仙沼	イヤコフ	千葉 中	1月17日
曾慶	マルファ	山内トシミ	12月3日
金成	エレナ	川股利江子	12月3日
上下堤	クリステン	イヤ笠井小夜香	3月15日

涌谷 マルフア 斎藤節子 4月25日
 仙台 オリガ 四津光子 12月26日
 イオアン 大立目謙朗 3月30日
 エレナ 遊佐せつ子 4月17日
 ルフ 太田道江 5月6日

中新田オリガ 村山新子 12月4日
 アンナ 佐藤千代子 12月17日
 イオナ 工藤信夫 1月31日
 アナスタシア 渡邊とめの 2月9日

白河 ワシリイ 堀田勝雄 4月11日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

◆洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」

札幌	ワシリイ	柯 鈞崴	4月15日
北鹿	アレクサンドル	宮岡秀行	12月25日
	アントニーナ	宮岡撓子	12月25日
金成	ナデジタ	佐藤弘子	2月8日
仙台	エウフロシニヤ	遊佐なみ子	5月7日

※洗礼おめでとございます。

